

巻 頭 言



三重県知事 鈴木 英敬

持続的に発展する三重を目指して

三重県では、海外の行政機関との緊密な関係を創ることが県内企業の海外展開にとって有益であるとの考えから、県が先頭に立って、海外とのネットワークの構築・強化を進めるとともに、海外ミッションなどを契機として、海外自治体などとの連携による取り組みを積極的に進めてきました。

今後は、昨年開催された伊勢志摩サミットによってもたらされた資産（レガシー）を三重の未来に生かすため、ポストサミット事業に注力します。具体的には次の3つの柱からなる事業を展開し、地方創生につなげたいと考えています。1つ目は、海外 MICE 誘致や海外誘客推進プロジェクトなどによる「人と事業を呼び込む」事業の促進です。2つ目は、さらなる女性活躍の機運醸成を図るプロジェクトや、県民が継続的に世界に目を向けるための国際ウィーク開催などの「成果を発展させる」事業を促進します。そして3つ目は、グローバルな視点を持ち、持続可能な社会づくりに向けて主体的に取り組もうとする小中高生を育成するための新たな事業や、県内外の大学生と留学生の国際交流などを活性化させる「次世代に継承する」事業を促進します。これらすべてに関して、地域のさらなる国際化が成功の鍵を握っていると考えています。

「みえ国際展開に関する基本方針」において、中国・ASEAN 各国は重点的に取り組むべき国・地域と定めています。私も近年、これらの国々を訪問する中で、日本への関心やインバウンド需要の高まりを実感しています。また、県内の外国人住民数を見ても、ベトナムをはじめ、インドネシア、ネパールなどアジア各国からの増加が顕著です。外国人の定住化が進む中で、ダイバーシティの視点を大切にしながら、多文化共生の社会づくりに力を入れ、今後もアジア諸国をはじめ、諸外国との連携を深めながら、その活力を取り込む事業にも力を入れてまいります。

4月21日から5月14日にかけて、4年に一度の全国菓子大博覧会を「お伊勢さん菓子博 2017」として開催します。運営ボランティアに応募いただいた方の中には、サミットで通訳や観光案内などのボランティアを経験された方も多く、サミットで培われた県民力が生かされることを期待しています。サミットによってもたらされた機運をとらえ、地域の国際化、産業の発展、県民の幸福感の向上など、さまざまな分野で持続可能な発展をしていくため、今後も産・学・民・官が一体となり「オール三重」で取り組みを進めてまいります。